



教育長と語る会 in 南島原市

教育長
渡辺 敏則



1月13日(金)、南島原市において、市内各地域で子育てやまちづくりなど、様々な場面で活躍されている8名の皆様と、「子どもたちの健やかな成長を願って私たちにできること」をテーマに、懇談する機会を得ました。

社会教育に携わっておられる皆さんと一つのテーマについて意見交換をする今回の機会を、たいへん楽しみにしておりました。会では、南島原市の皆さんが「子どもの健やかな成長」という共通の思いを持って、様々な立場から熱心に活動されていることを御紹介いただき、有意義な時間となりました。「地域とのかかわりの中で、子どもたちをどう育てていくか」を考える上で、参考とさせていただきたいと思っております。

以下に、語る会の様子を御紹介します。

懇談会に参加していただいた方々

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 三原昌典さん(南島原市社会教育委員長) | 中村知見さん(南島原市公民館運営審議会委員長) |
| 中村一元さん(南島原市青少年育成市民会議会長) | 鬼塚俊範さん(南島原市PTA連合会会長) |
| 永田潤三さん(南島原市子ども会育成連絡協議会会長) | 大野義満さん(南島原市校長会会長) |
| 荒木治重さん(南島原市教育委員会教育総務課参事) | |
| 林田充敏さん(南島原市教育委員会生涯学習課参事) | |

話題：「大人が待つ姿勢を」、「負(不自由)の体験をしくもう」、「必要とされることで人は動く」

禅の世界では、年をとった人を指導者にしないという考えがあります。人を育てるには指導者が待つことが必要ですが、一般的に、年をとった方には待つことができない方が多いからです。

現代は、子どもにすぐに結果を求め、待つことのできない社会になっているのではないのでしょうか。

挨拶をするなど、今の子どもにはいい面がたくさんあります。一方、指示がなければ動けない子どもが多いとも感じています。自ら進んで取り組む子どもが少ない、覇気が足りない、と感じることがよくあります。

子ども会の活動において、子どもの代表者に子どもの会の必要性を説明した上で、子どもだけで新聞をつくるという取組を行いました。その結果、地域にある、三十三の全ての子ども会が、子ども新聞を作成し、発表しました。子どもたちは生き生きと活動していました。自分たちで考えて活動する機会を設けることの大切さを感じました。

指示待ちの子どもが多いというのは、子どもが困っていないことが背景にあるのではないかと感じています。そういう意味で、通学合宿などは、子どもに不自由の体験を味わわせることができるため、子どもの成長にとってたいへん意味のあることだと考えます。

東日本大震災では、避難所で若い人がたいへん懸命に活動していました。人は、必要とされると力を発揮するということを改めて感じました。エネルギーを感じるとともに、このエネルギーを、ぜひ地域づくりに生かしたいものです。



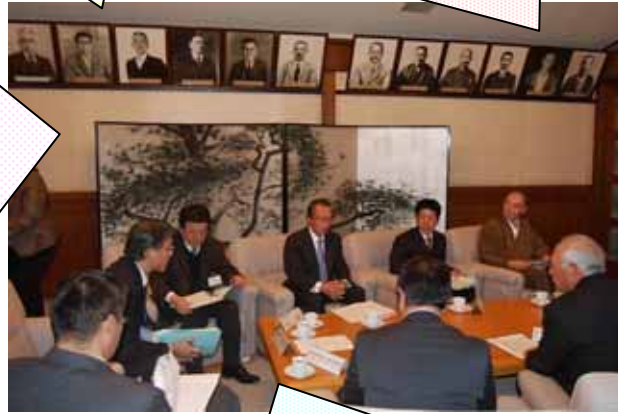
話題：「大人のつながり」、「世代をつなぐPTA」、「大人が自信を持とう」

バスの中で子どもを注意するとき、「運転手さんから叱られるよ!」という大人の言葉を聞いたことがあります。

大人が、自分の言葉で、子どもの行為をきちんと叱ってほしい!

私たちは、昔は親や地域の方にしっかりと叱られたものですが、自分の反省も含め、近頃の親や地域の方は、遠慮しているのではないかと感じます。叱る勇気がないためか、大人が何となく自信をなくしているのではないかと感じることがあります。

核家族化が進み、子育ての悩みを家庭の中だけで抱え込んでいる保護者が多くなつたと感じます。また、PTA活動も自発的な活動が少なくなり、特定の人を中心となって進めているという課題があります。その一方で、近年は、父親が前面に出て活動するという面も出てきました。PTA活動を通して、様々な考えを持った人とコミュニケーションをとることが課題です。



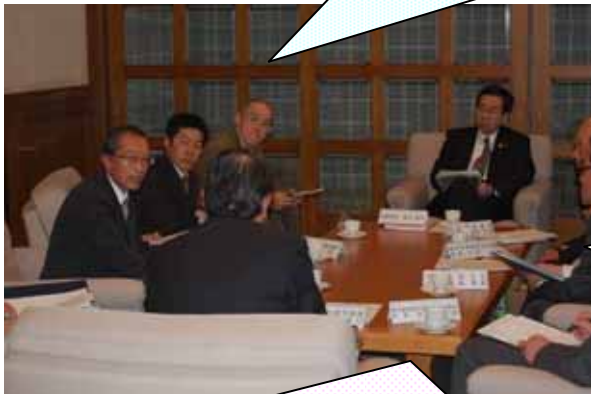
PTA活動は、世代をつなぐことができます。様々な人の、様々な考えを聞くことができます。

市内の学校では、「おやじの会」の活動として、本の読み聞かせなどを行っています。この会の活動により、50代の父親も20代の父親も互いに知り合いになれます、様々な世代が付き合いを深めることができます。

話題：「地域コミュニティの再生」、「放課後子ども教室」

子ども110番の家に、老人クラブの方のお宅をお願いし、子どもの登下校の時間に家の前で声かけをしていただきました。一方、子ども110番の家に御協力いただいている地域の高齢者を、運動会や弁論大会などの行事に招待しました。

このことにより、高齢者も学校にスムーズに入っていくことができるようになり、子どもとの交流が広がりました。



地域コミュニティの再生を目指して、自治会の運動会を実施しました。この運動会では、子ども会にも老人クラブにも呼びかけ、グラウンドゴルフなどを行いました。近所に住みながら顔を知らない人が増えており、多くの人と知り合いになれる機会となり、特に高齢者にたいへん喜んでいただきました。

南島原市では、現在の放課後子ども教室に当たる取組「寺子屋21」を、平成14年度から行っています。現在も、地域の皆さんに、第1、3土曜日の午前中、子どもたちに文化やスポーツを指導していただいております。指導者が約400名、教室数が90にも拡大しています。